

見樹院ニュース

O T E R A N E W S

第58号 2012年12月26日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03(3812)3711

FAX 03(3815)7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

[Http://www.nam-mind.jp](http://www.nam-mind.jp)

確かな未来につながる希望の年に

修正会 (しゅしょうえ) 1月6日 (日) 午前9時より

新しい年を迎えることを感謝し
すべての人の幸せを祈ります

1月の月例法要「極楽誕生会」(毎月第一日曜日)に併せて厳修いたします。

初めての方もどうぞお気軽にご参集下さい。

無量の光をそそぎ、無限のいのちを支える本尊阿弥陀如来にご回願し、お屠蘇を飲みながら新しい年の夢を語りましょう。

昨年の大震災からの復興もままならず、長引く不況に出口も見えず、私の周りでも痛ましい事件が重なり、パレスチナ・シリア・ミャンマーはじめ暴力が渦巻く世界情勢に、周辺国との関係悪化など、多くの課題を抱えたまま、今年も終わろうとしています。様々な現場に関わってきましたが、本当に苦しんでいる人々の声が届かず、結局、カネや情報を支配する側にとって都合のいい社会に向かっていることを実感します。

福島や沖縄で命が軽んじられ、人権が踏みにじられているのに対しても、多くの人が無関心であることに、一体この国の人々は何を学び、何を積み上げてきたのだろうか、正に「末法」を感じます。

しかし、そのような時代認識は、まさに法然上人の生き方とも重なります。平安末期の混乱のさなか、夜襲によって命を落とした父の「仇討ちをせず、殺し合いの悪因縁を断ち切る別の道を求めよ」という遺言により、武士の世に移り変わる中で、万人救済の阿弥陀浄土をめざされた宗祖の教えに生きる者の使命として、私たちも、この社会の中から希望を搾り出していきたいと思います。

2013年(平成25年)の主な予定

- ◆1月6日(日) 新春法要「修正会」
- ◆3月17日(日)～23日(土) 春季彼岸
- ◆4月6日(土)～7日(日) 花まつり(釈尊降誕会)
- ◆6月30日(日) 大施餓鬼会・見樹会総会
- ◆7月13日(土)～15日(月) を中心に新暦盆
- ◆8月13日(火)～15日(木) を中心に旧暦盆
- ◆9月20日(金)～26日(木) 秋季彼岸
- ◆9月23日(月・秋分の日) 秋季彼岸法要

月例供養「極楽誕生会」(毎月第1日曜午前9時～)

- ◆1月6日 ◆2月3日 ◆3月3日 ◆4月7日
- ◆5月5日 ◆6月2日 ◆7月7日 ◆8月4日
- ◆9月1日 ◆10月6日 ◆11月2日 ◆12月1日

2013年(平成25年)の年回法要

お位牌、過去帳等をお確かめの上、ご法要の日時のご希望、お塔婆の申込みはお早めにご連絡下さい。

1周忌	平成24年(2012年)
3回忌	平成23年(2011年)
7回忌	平成19年(2007年)
13回忌	平成13年(2001年)
17回忌	平成9年(1997年)
23回忌	平成3年(1991年)
27回忌	昭和62年(1987年)
33回忌	昭和56年(1981年)
37回忌	昭和52年(1977年)
50回忌	昭和39年(1964年)
100回忌	大正3年(1914年)

化学物質ゼロ・天然素材のみ使用 見樹院オリジナルアイテム

●本堂用椅子

見樹院世話人で工業デザイナーの村上哲夫さんの企画・設計により、無垢の木材に接着剤は膠(にかわ)、座面は帆布綿、詰物は真綿という、昔ながらの技術と素材で作られました。ぜひ座り心地の良さを体験して下さい。



これは、先日の公演後のシンポジウムで放送局員の子どもたちから出された言葉です。福島現状と未来については、様々な見方が交錯する一方で、関心が薄らぎ忘れ去られる気配を現地の人は感じています。2013年の年頭に当たり、原子力災害でもっとも影響を受け、未来に背負っていかなくてはならない子どもたちの声を起点に、あらためてこの問題を考えたいと思います。作品を通して彼女たちの思いを受け止め、この表現活動を支える同高校放送局顧問の渡部義弘(わたのべよしひろ)さんにお話をうかがいます。

●燻煙乾燥杉製 お数珠

見樹院の建築に使われたのと同じ、宮城県栗駒高原の杉で作りました。もちろん化学物質ゼロの杉の香りは、身も心も安らかにしてくれます。



落慶の記念品として、施餓鬼会の時に各家に一つずつお配りいたしました。当日欠席でまだお手元にない方はお申し出ください。また、それ以外で購入ご希望の方には@5千円でお預けいたします。

学習会ご案内 (詳細は住職まで)

福島の高校生による劇(今、伝えたいこと(仮))
を観て考える、子どもの参画

日時：2013年1月6日(日) 14時~17時

会場：見樹院 本堂

上映作品：■ 演劇DVD「今 伝えたいこと(仮)」
■ ラジオドキュメント「緊急時避難準備不要区域より」2011年6月制作
■ テレビドキュメント「Girl's Life in Soma」2012年6月制作
・・・ほか(およそ1時間半)

ゲスト：渡部義弘 教諭(福島県立相馬高校放送局顧問)
参加費：500円

福島第1原発から45キロほどの距離、福島県立相馬高等学校に通う高校生たちが、放送局での演劇活動を通して、今、伝えたいことを表現しています。中学校の卒業式の日(3.11東日本大震災)に遭い、

高校に進学した彼女たちはこれまで、生々しいまでの「今」を、演劇・ラジオドラマ・テレビドキュメントなどにまとめ、全国各地で上演・上映され、大きな反響を得ています。

大人たちは、子どもたちに未来を任せると言う。私たちに未来を預けたいというなら、もっと子どもたちの今の意見に耳を傾けてほしい。

これは、先日の公演後のシンポジウムで放送局員の子どもたちから出された言葉です。福島現状と未来については、様々な見方が交錯する一方で、関心が薄らぎ忘れ去られる気配を現地の人は感じています。2013年の年頭に当たり、原子力災害でもっとも影響を受け、未来に背負っていかなくてはならない子どもたちの声を起点に、あらためてこの問題を考えたいと思います。作品を通して彼女たちの思いを受け止め、この表現活動を支える同高校放送局顧問の渡部義弘(わたのべよしひろ)さんにお話をうかがいます。

犠牲者・被害者の視点から考える
福島の未来と私たちの生き方(仮題)

日時：3月2日(土) 18時~20時半(予定)

会場：見樹院 本堂

福島をめぐり最も悲しいことは、利権まみれの「復興」が優先し、本当に苦しむ人々の声が届かず、嘘と隠蔽がまかり通り日本社会がますます荒んでいくことです。

相馬家の菩提寺として由緒ある南相馬市小高地区 曹洞宗同慶寺の住職を勤める田中徳雲さん(曹洞宗)他、福島の方々をお招きしてお話を聞きます。

田中さんは、以前から原発に問題意識を持っておられ、昨年3月1日の地震発生直後、「非常用電源喪失」の報せを聞いてすぐ近隣や檀信徒に避難を呼びかけ、その日のうちに妻と幼い子どもたちを連れ会津へ、翌日、福井の永平寺近くに避難されました。その後、単身福島に戻り犠牲者を弔いながら家族を亡くし、あるいは一家が離散して避難している檀信徒などのケアに当たられています。



【写真は今年5月、福井県庁で再稼働の再考を訴える田中さん】

また、肉親を亡くし妻子を北海道に避難させ、自らは福島で医療に携わる方、福島出身の若者などにもお話を聞き、これからの支援のあり方、そして私たちの生き方を考えたいと思います。